

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年6月28日
【事業年度】	第63期（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）
【会社名】	株式会社田中化学研究所
【英訳名】	TANAKA CHEMICAL CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役 社長執行役員 横川 和史
【本店の所在の場所】	福井県福井市白方町45字砂浜割5番10
【電話番号】	0776（85）1801（代表）
【事務連絡者氏名】	副社長執行役員 大畑 尚志
【最寄りの連絡場所】	福井県福井市白方町45字砂浜割5番10
【電話番号】	0776（85）1801（代表）
【事務連絡者氏名】	副社長執行役員 大畑 尚志
【縦覧に供する場所】	株式会社田中化学研究所東京事務所 （東京都品川区東五反田一丁目10番7号 アイオス五反田4階） 株式会社田中化学研究所大阪支社 （大阪市中央区久太郎町一丁目6番26号 船場L Sビル10階） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第59期	第60期	第61期	第62期	第63期
決算年月	2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月
売上高 (千円)	12,384,470	15,266,171	13,254,385	21,413,106	32,632,135
経常利益又は経常損失 (千円)	660,234	574,280	654,502	633,338	521,102
当期純利益又は当期純損失 (千円)	2,663,795	312,519	640,674	681,792	524,901
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-	-	-
資本金 (千円)	2,492,521	2,492,521	5,779,021	5,779,021	9,155,228
発行済株式総数 (株)	14,850,800	14,850,800	25,350,800	25,350,800	32,533,000
純資産額 (千円)	1,610,562	1,815,648	7,753,642	8,438,506	14,662,424
総資産額 (千円)	14,633,547	12,465,512	13,798,962	16,477,303	26,021,535
1株当たり純資産額 (円)	108.46	122.27	305.87	332.88	450.71
1株当たり配当額 (円)	-	-	-	-	-
(内1株当たり中間配当額)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額 (円)	188.95	21.05	33.33	26.90	19.17
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	11.0	14.6	56.2	51.2	56.3
自己資本利益率 (%)	-	18.2	-	8.4	-
株価収益率 (倍)	-	36.54	-	59.16	-
配当性向 (%)	-	-	-	-	-
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	440,437	322,974	226,332	797,611	2,524,968
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	409,875	177,009	329,242	331,690	3,212,626
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	162,633	286,323	2,171,500	423,343	6,276,728
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	3,346,351	2,893,288	4,521,968	2,945,108	8,535,756
従業員数 (人)	180	175	184	201	231
(外、平均臨時雇用者数)	(29)	(33)	(38)	(36)	(42)
株主総利回り (%)	90.9	171.3	163.0	354.3	199.6
(比較指標：TOPIX配当込み)	(130.7)	(116.5)	(133.7)	(154.9)	(147.1)
最高株価 (円)	568	1,890	1,318	2,918	1,855
最低株価 (円)	391	376	645	621	720

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 第59期、第61期及び第63期は、当期純損失であるため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額、自己資本利益率、株価収益率及び配当性向は記載しておりません。

3. 第60期及び第62期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 第60期及び第62期の配当性向については、無配のため記載しておりません。
5. 第59期、第60期、第61期、第62期及び第63期の1株当たり配当額については、無配のため記載しておりません。
6. 当社は連結財務諸表を作成しておりませんので、「連結経営指標等」については記載しておりません。
7. 最高株価及び最低株価は東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

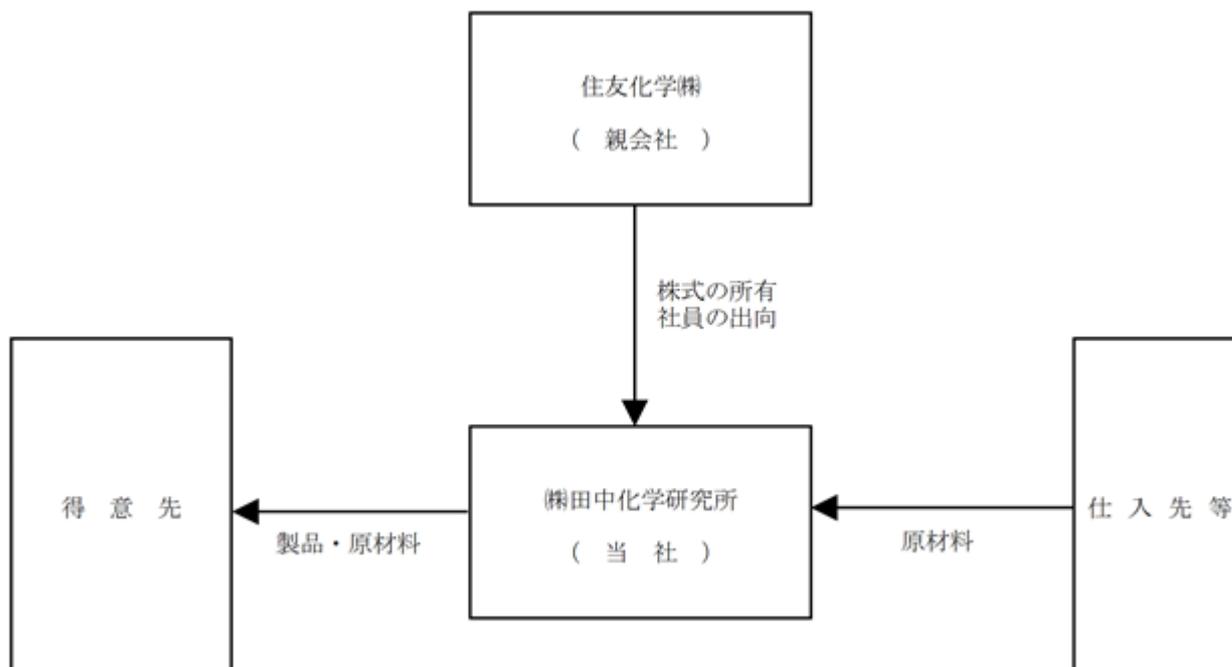
2【沿革】

1957年12月	大阪市生野区において株式会社田中化学研究所を設立。兵庫県尼崎市に武庫川工場を新設し、フェライト用炭酸マンガンの生産を開始。
1959年8月	兵庫県芦屋市に芦屋工場を新設。
1973年12月	水酸化ニッケルの販売を開始。
1986年8月	ニッケルカドミウム電池用高密度水酸化ニッケルの生産を開始。
1988年9月	福井臨海工業地帯に福井工場を新設するとともに、芦屋工場を閉鎖。
1991年10月	ニッケル水素電池用高密度水酸化ニッケルの生産を開始。
1991年11月	福井県福井市に本社を移転。
1995年5月	大阪市中央区に大阪支社を開設。
1995年8月	リチウムイオン電池用酸化コバルトの生産を開始。
1996年12月	福井県坂井市坂井町に物流センターを新設。
1997年5月	高容量型水酸化ニッケル(コバルトコート品)の生産を開始。
1999年7月	ISO14001の認証を取得。
1999年12月	東京都千代田区に東京支社を開設。
2000年2月	日本証券業協会に株式を店頭登録。
2002年10月	ISO9001の認証を取得。
2003年8月	三元系正極材料の生産を開始。
2004年12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場。
2007年6月	武庫川工場を閉鎖するとともに福井工場に統合。
2009年9月	三元系正極材料の米国特許を取得。
2010年4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所JASDAQに上場。
2012年1月	三元系正極材料の日本国特許を取得。
2013年7月	東京証券取引所と大阪証券取引所の統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)に上場。
2014年2月	大阪支社・東京支社(東京事務所に改称)を移転。
2016年10月	第三者割当による新株式発行により住友化学株式会社の子会社となる。

3【事業の内容】

当社は、二次電池用の正極材料の製造販売を主な事業としております。
当社は二次電池事業の単一セグメントであるため、セグメントごとに記載しておりません。

事業の系統図は、次のとおりであります。



4【関係会社の状況】

関係会社は次のとおりであります。

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業の 内容	議決権の 所有割合 又は被所有 割合 (%)	関係内容
(親会社) 住友化学株式会社	東京都中央区	89,699,341	総合化学工業	被所有 50.43	株式の被所有 出向者の受入 (出向者16名 兼務出向者2名)

(注) 有価証券報告書提出会社であります。

5【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

2019年3月31日現在

従業員数 (人)	平均年齢 (歳)	平均勤続年数 (年 ヶ月)	平均年間給与 (円)
231 (42)	38.8	9年3ヶ月	5,952,945

(注) 1. 従業員数は、就業人員であり、臨時雇用者数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。
2. 平均年間給与は、基準外賃金及び賞与が含まれております。
3. 当社は二次電池事業の単一セグメントであるため、セグメントごとに記載しておりません。

(2) 労働組合の状況

当社の労働組合は田中化学研究所労働組合と称し、全国繊維化学食品流通サービス一般労働組合同盟(UAゼンセン)に加盟しております。

2019年3月31日現在の組合員数は119名で、労使関係は1960年結成以来、円満に推移しており特記すべき事項はありません。

第2【事業の状況】

当社の消費税等に係る会計処理は、税抜方式によっているため、この項に記載の売上高、生産実績及び販売実績には、消費税等は含まれておりません。

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

(1) 経営方針

当社は、「環境とエネルギーをキーワードとして、社会に貢献する5S企業の実現」を経営理念として、機能性無機化学材料の研究開発と製造において、オリジナリティの高い先端的な製品を供給する研究開発型企業として成長、発展していくことを基本方針としております。

5S = C S (お客様) S S (株主) E S (従業員) S S (社会) G S (地球)

(2) 経営戦略等

当社を取り巻く二次電池市場は車載用途を中心に今後一段と需要の拡大が見込まれております。このような市場環境の中、さらなる事業拡大の為には効率的な増産体制の構築を進めること、コスト競争力を高めること及び最先端の技術開発を推進する必要性があり、社内リソースを集中し顧客要望に適った製品を迅速に供給出来るよう取組みを加速してまいります。

(経営戦略)

リチウムイオン電池向け材料事業の最適化
ニッケル水素電池向け材料事業の最適化
コスト競争力の強化
人材組織改革

(3) 経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当面目標とする経営指標は経常利益黒字化の定着を掲げております。

(4) 経営環境

当社の主たるマーケットである二次電池市場は、EV(電気自動車)、HV(ハイブリッド自動車)やPHV(プラグインハイブリッド自動車)の車載用途を中心に中長期的に需要拡大が見込まれているため、業界全体で主導権争いが活発化しております。

リチウムイオン電池に関しては、EVやPHVの車載用途を中心として市場が大きく拡大するものと見込まれており、世界的に主導権を獲るべく各国政府や関連するメーカーにおいて官民連携や民間同士の提携など競争力向上に向けた動きが活発化しております。

ニッケル水素電池に関しては、HVの車載用途で引き続き旺盛かつ緩やかながらも増加基調での需要が継続しております。

(5) 事業上及び財務上の対処すべき課題

販売拡大及び開発促進

- ・リチウムイオン電池向け材料の顧客要望に適った開発促進と増産体制の構築
- ・ニッケル水素電池向け材料の増産体制の構築と安定供給の体制整備
- コスト競争力強化
- ・不良品発生の徹底抑制
- ・棚卸資産の在庫水準適正化
- ・既存設備の生産効率の向上及び製法・工法の改良を織り込んだ低コスト設備開発による設備投資金額の削減
- ・生産性の向上
- ・間接費の適正化に向け徹底的に削減し合理化を追求

(6) 対処方針等

当社は当事業年度において将来の需要拡大に向けた増産体制を構築することを決定しており、今後において段階的に設備稼働が見込まれております。徹底的に合理化を図りコスト競争力を高める取組みとともに顧客要望に適った新製品開発を推進してまいります。

(7) 株式会社の支配に関する基本方針について

基本方針の内容の概要

当社は、金融商品取引所に株式を上場している者として、市場における当社株式の自由な取引を尊重し、特定の者による当社株式の大規模買付行為であっても、当社の企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に資するも

のである限り、これを一概に否定するものではありません。また、最終的には株式の大規模買付提案に応じるかどうかは株主の皆様の決定に委ねられるべきだと考えています。

ただし、株式の大規模買付提案の中には、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を損なうおそれのあるものや、当社の価値を十分に反映しているとは言えないもの、あるいは株主の皆様が最終的な決定をされるために必要な情報が十分に提供されないものもありえます。

そのような提案に対して、当社取締役会は、株主の皆様から経営を負託された者の責務として、株主の皆様のために、必要な時間や情報の確保、株式の大規模買付提案者との交渉などを行う必要があると考えています。

基本方針の実現に資する特別な取組みについて

(企業価値向上の取組)

当社の中長期的な経営の基本方針は、将来性・成長性の高い二次電池市場を背景に、飛躍的な事業拡大と同時に、堅固な経営体質を併せ持つ持続的企業を実現することにあります。

この経営の基本方針を着実に実行することで、当社の持つ経営資源を最も有効に活用するとともに、様々なステークホルダーとの良好な関係を維持・発展させ、当社の企業価値ひいては株主共同の利益の一層の向上に資することができると考えております。

(コーポレート・ガバナンスの強化)

当社は継続的な企業価値向上を具現化していくために、コーポレート・ガバナンスの強化が必要であると認識しており、経営責任を明確にし、経営環境の変化に迅速に対応できる経営体制を構築しております。

現在当社は1名の社外取締役を選任しており、監査役3名は、常勤・非常勤を問わず全員が社外監査役であることから、独立性の高い役員により取締役の会社経営を監視できる体制となっております。

また、経営責任を明確にし、経営環境の変化に迅速に対応できる経営体制を構築するために、取締役の任期を1年としており、さらに執行役員制度を導入し、業務執行の迅速化を図っております。

当社と親会社グループとの取引の公正性及び透明性を確保するとともに、当社の少数株主の利益の保護に資することを目的として、取締役会の諮問機関として社外役員審議委員会を設置しております。

2【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

(1) 主要原材料の価格変動について

当社製品の主要原材料であるニッケル及びコバルトは国際市況商品であるため、海外の需給状況及び為替相場により仕入価格が変動いたします。また、苛性ソーダや硫酸などの主要ケミカル材料及び重油などの燃料も国内外の需給状況などにより仕入価格が変動いたします。当社製品の販売価格は、基本的には主要原材料価格に連動して決定される仕組みとなっておりますが、主要原材料価格が急激に変動した場合には、製品価格への転嫁が遅れることなどにより、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 二次電池正極材料への依存度が高いことについて

当社は、無機化学製品として二次電池正極材料、触媒化学薬品及び表面処理化学薬品を製造・販売しておりますが、二次電池正極材料への依存度が2019年3月期において98%以上(数量ベース)と高くなっております。このため、環境対応車及びノートパソコン・スマートフォン・電動工具などの民生機器が主要な用途であります国内外の二次電池の市場動向や技術動向が、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 特定の取引先への依存度が高いことについて

当社の主な販売先のうち、パナソニックグループ・L&F Co., LTD・Samsung SDI Co., LTDの3社に対する売上高の依存度が2019年3月期において約70%と高くなっております。については、このような取引関係が継続困難となった場合や、各社の製品需要の動向その他種々の変化によっては、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 製品のライフサイクルについて

当社は、研究開発型企業として常に技術的に進化した新製品の開発と市場化に向けた努力を行っております。また、主要なマーケットである二次電池市場も日進月歩の技術的進歩が常に起こっており、その結果、当社製品の中には、ライフサイクルが比較的短く、また、その製造設備を他に転用することが困難であるために、十分な減価償却が進まないうちに設備除却または減損処理を余儀なくされる場合があり、その状況によっては当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 生産が福井工場に集中していることについて

当社は、2007年6月末の武庫川工場の閉鎖実施後は、福井工場における一極生産体制となっております。その結果、地震等の自然災害その他何らかの事由により福井工場における生産の円滑な継続に支障の出る事態となった場合には、その状況によっては当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 親会社との関係について

当社の親会社は住友化学株式会社（以下、住友化学といいます。）であり、当社は連結子会社として住友化学グループに属しております。

当社の経営方針についての考え方や利害関係が住友化学との間で常に一致することの保証はなく、住友化学による当社の議決権行使及び保有株式の処分の状況等により、当社の事業運営及び当社普通株式の需要関係等に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 他社との競合や価格競争について

当社の事業は価格競争に晒されております。競合他社の生産能力増強、輸出入時の関税など、様々な理由により当社の製品は今後も厳しい価格競争に晒されるものと予想されます。当社はコストの低減に努めておりますが、価格競争を克服できない場合、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 増産計画について

当社の増産計画は、当社製品の需要予測などをふまえて策定し、実行しております。経済情勢の悪化や販売予定先の状況の変化、設備の不具合などにより計画どおりに進展しない場合、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 製品の品質について

当社は、世界的に認められている厳格な品質管理基準に従って、各種製品を製造しておりますが、すべての製品について欠陥が無く、将来にわたってリコールが発生しないという保証はありません。大規模な製品事故や予期せぬ品質問題の発生は、多額のコストや当社の評価に重大な影響を与え、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(10) たな卸資産の評価損について

当社が保有するたな卸資産について、将来需要の変化や市場環境の悪化などにより、評価損の計上が必要となり、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(11) 固定資産の減損について

当社は減損会計を適用しております。将来、当社が保有する固定資産について、経営環境の著しい悪化などによる収益性の低下や市場価格の下落などにより、減損損失が発生し、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(12) 為替レート変動について

当社は、国内で製造した製品を海外に輸出するとともに海外から原料品を輸入しておりますが、製品輸出高は原料品輸入高を上回っております。外国通貨に対して円高が進行した場合、海外で生産された製品に対する価格競争力が低下することに加え、輸出手取額の減少が輸入支払額の減少を上回るようになります。為替レートの変動によるリスクを完全にヘッジすることはできないため、円高の進行は当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(13) 金利変動について

当社は、資金需要に対してその内容や財政状態及び金融環境を考慮し、調達の種類・期間・方法などを判断しております。今後の金利の変動に備え、変動金利・固定金利を適宜組み合わせることで調達を行うこととしておりますが、金利が上昇した場合には支払利息が増加し、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(14) 研究開発について

当社は、販売先のニーズに合わせた新技術・新製品をスピーディーに上市するため、積極的に研究開発を行っております。新製品が販売予定先に採用されない、または新製品の開発が著しく遅延若しくは断念される場合には、競争力が低下し、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(15) 知的財産の侵害について

当社は、他社と差別化できる技術とノウハウを蓄積し事業の競争力を強化してきましたが、当社独自の技術・製品とノウハウの一部は、厳正な管理を行っているものの、予期せぬ事態により外部に流出する可能性があり、また、特定の地域ではこれらの知的財産の完全な保護が不可能なため、第三者が当社の知的財産を使用して類似製品を製造することを効果的に防止できない可能性があります。また将来、知的財産に係る紛争が生じ、当社に不利な判断がなされる可能性があります。

(16) 規制変更について

当社は、日本及び販売先の関係する各国の規制に従い、業務を遂行しております。将来における法律、規則、政策、実務慣行、解釈及びその他の変更並びにそれらによって発生する事態が、当社の業務遂行や業績に影響を及ぼす可能性があります。また、将来的に環境及び化学品安全などに対する法的規制が強化され、新たな対策コストが発生する可能性があります。

3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績等の状況の概要

財政状態の状況

(資産)

流動資産は、前事業年度末比4,700百万円の増加となりました。その主な要因は、現金及び預金1,090百万円、グループ預け金4,500百万円が増加した一方、売上債権352百万円、たな卸資産602百万円が減少したことによるものであります。

固定資産は、前事業年度末比4,843百万円の増加となりました。その主な要因は、設備投資による固定資産の取得5,248百万円に対し、減価償却費624百万円を計上したことによるものであります。

(負債)

負債は、前事業年度末比3,320百万円の増加となりました。その主な要因は、仕入債務1,380百万円、未払金1,138百万円、設備関係電子記録債務1,276百万円が増加したことによるものであります。

(純資産)

純資産は、当期純損失を計上したこと、公募及び第三者割当による増資等により前事業年度末比6,223百万円増加の14,662百万円となり、自己資本比率は56.3%となりました。

経営成績の状況

当事業年度における二次電池業界は、世界各国の環境規制への対応から自動車のEV（電気自動車）シフトが加速 中国市場においてはEV関連産業の育成を企図した補助金政策も段階的に減少され、関連メーカーの競争環境の変化 EV含め環境対応車の普及やIoTの進展から高安全性、高容量、長寿命、短時間充電などより高性能電池への要求が増大 車載用はじめ用途拡大による二次電池の需要拡大から必要な希少金属の資源確保に向けた動きが官民連携で展開 など各国政府や関連するメーカーにおいては増大していく市場への対応として増産体制や新たなサプライチェーンの構築及び次世代電池の開発競争など業界全体で主導権争いが活発化しております。

このような市場環境の中、当社といたしましても前事業年度末から車載用途製品の販売が増加基調で推移しており、短中期的にも顧客からの増産要請が高まる中で段階的に増産体制の構築を図っております。当事業年度は、第一期投資とした原料溶解設備は当年第3四半期に完成し、第二期投資として製品生産設備及び工場のインフラ設備の増強、さらに第三期投資として工場建屋及び製品生産設備の増強を決定しております。

業績面においては車載用途を中心に販売量は増加基調で推移しているものの、期初からの主要なケミカル材料や電力料金の値上げにより大幅に上昇したコスト部分の顧客への転嫁には時間を要しました。さらに、中期的な増産に向けた設備投資に加えて組織人員体制を強化していることから労務費を中心に経費が増加しております。

また、当社製品の主原料であるニッケル及びコバルトの国際相場において、ニッケルは前期より、またコバルトは前々年第2四半期より当年第1四半期にかけて上昇を続けておりましたが、当年第2四半期から徐々に下落をはじめ、当事業年度末にかけてはニッケル、コバルトともに急激かつ下げ幅も当年第1四半期の最高値比でニッケルは約30%、コバルトについては約70%の下落幅となり、期末における在庫評価減とあわせて大きな減益要因となりました。

以上の結果、売上高32,632百万円（前事業年度比52.4%増）、営業損失494百万円（前事業年度は営業利益730百万円）、経常損失521百万円（前事業年度は経常利益633百万円）、当期純損失は524百万円（前事業年度は当期純利益681百万円）となりました。

主要な製品用途別の販売数量の概況は以下のとおりであります。なお、当社は二次電池事業の単一セグメントであるため、セグメントごとに記載しておりません。

「リチウムイオン電池向け製品」

前事業年度比で38.5%の増加となりました。用途別の増減は次のとおりであります。

- ・車載用途は、前年第3四半期より新製品の販売が開始された事により、前事業年度比で149.2%の増加となりました。
- ・民生用途は、生産設備の一部を車載用途へと転換させた事により、前事業年度比で6.1%の減少となりました。

「ニッケル水素電池向け製品」

前事業年度比で10.5%の増加となりました。用途別の増減は次のとおりであります。

- ・車載用途は、主要顧客からの受注が増加基調で推移しており、前事業年度比で15.8%の増加となりました。
- ・民生用途は販売数量自体、他の製品分野と比較すると限定的ではありますが受注量が減少しており、前事業年度比で19.4%の減少となりました。

(ご参考)

(ニッケル国際相場：円換算)

(単位：円 / k g)

	4～6月平均	7～9月平均	10～12月平均	1～3月平均
2019年3月期	1,592	1,489	1,307	1,378
2018年3月期	1,037	1,178	1,320	1,452

(コバルト国際相場：円換算)

(単位：円 / k g)

	4～6月平均	7～9月平均	10～12月平均	1～3月平均
2019年3月期	10,429	8,741	8,089	4,483
2018年3月期	6,965	7,324	8,059	9,456

ニッケル LME (ロンドン金属取引所) 月次平均 × TTS月次平均

コバルト LMB (ロンドン発行メタルブリテン誌) 月次平均 × TTS月次平均

キャッシュ・フローの状況

当事業年度末における現金及び現金同等物は、前事業年度末比5,590百万円増加し、8,535百万円となりました。

当事業年度における各キャッシュ・フローは次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、2,524百万円の収入(前事業年度は797百万円の支出)となりました。これは主に、税引前当期純損失531百万円に対し、減価償却費624百万円、運転資本の減少に伴う収入2,334百万円があったためであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、3,212百万円の支出(前事業年度は331百万円の支出)となりました。これは主に、有形固定資産の取得に伴う支出3,210百万円があったためであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、6,276百万円の収入(前事業年度は423百万円の支出)となりました。これは主に、株式発行による収入6,715百万円に対し、長期借入金の返済による支出300百万円、ファイナンス・リース債務の返済による支出138百万円があったためであります。

生産、受注及び販売の実績

当社は二次電池事業の単一セグメントであるため、品目別に生産、受注及び販売の状況を記載しております。

(生産実績)

当事業年度における生産実績を品目別に示すと、次のとおりであります。

品目	生産高(千円)	前期比(%)
リチウムイオン電池向け製品	29,855,641	156.7
ニッケル水素電池向け製品	1,985,536	115.2
その他	825,712	139.8
合計	32,666,889	152.9

(注)生産金額は販売予定価額をもって示しております。

(受注実績)

当事業年度における受注実績を品目別に示すと、次のとおりであります。

品目	受注高(千円)	前期比(%)	受注残高(千円)	前期比(%)
リチウムイオン電池向け製品	29,457,127	152.9	609,037	59.6
ニッケル水素電池向け製品	1,933,087	109.2	92,743	100.1
その他	5,361	8.6	-	-
合計	31,395,576	148.8	701,781	63.0

(注)受注金額は販売予定価額をもって示しております。

(販売実績)

当事業年度における販売実績を品目別に示すと、次のとおりであります。

品目	販売高(千円)	前期比(%)
リチウムイオン電池向け製品	29,869,368	157.2
ニッケル水素電池向け製品	1,933,029	105.6
その他	829,737	141.5
合計	32,632,135	152.4

(注) 最近2事業年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前事業年度		当事業年度	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
パナソニック(株)	4,513,735	21.1	11,291,932	34.6
L&F Co., LTD.	5,801,694	27.1	7,747,238	23.7
丸紅(株)	-	-	5,535,931	17.0
三洋電機(株)	2,436,441	11.4	-	-

- (注) 1. 前事業年度の丸紅(株)への販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合については、当該割合が100分の10未満となっているため記載を省略しております。
2. 当事業年度の三洋電機(株)への販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合については、当該割合が100分の10未満となっているため記載を省略しております。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社の経営成績等の状況に関する分析・検討内容は、以下のとおりであります。
なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において判断したものであります。

財政状態の分析

当事業年度の財政状態の分析につきましては、「(1)業績等の状況の概要、財政状態の状況」をご参照ください。

経営成績の分析

(売上高)

当社販売製品の主原料となるニッケル及びコバルトの国際相場が上下に変動したことに加え、製品の販売数量が増加したため、売上高は前事業年度比52.4%増の32,632百万円となりました。

(売上原価)

上記主原料の国際相場の変動、主要ケミカル材料や電力料金等の値上げ、製品の販売数量の増加のため、売上原価は前事業年度比63.2%増の31,438百万円となりました。

(売上総利益)

以上の結果、売上総利益は1,194百万円(前事業年度は2,150百万円)となりました。また、売上総利益率は3.7%(前事業年度は10.0%)となりました。

(販売費及び一般管理費)

販売費及び一般管理費は、前事業年度と比較して268百万円増加の1,688百万円となりました。なお、販売費及び一般管理費に含まれる研究開発費の総額は555百万円(前事業年度は463百万円)となりました。

(営業利益)

売上総利益から販売費及び一般管理費を控除した営業損失は494百万円(前事業年度は営業利益730百万円)、売上高営業利益率は1.5%(前事業年度は3.4%)となりました。

(営業外収益・費用)

当事業年度は、有利子負債にかかる利息から受取利息を差引いた純金利息負担は18百万円(前事業年度は22百万円)となりました。また、営業外収益として、為替差益24百万円(前事業年度は為替差損71百万円)を計上いたしました。以上の結果、営業外収益から営業外費用を差引いた金額は27百万円となりました。

(経常利益)

以上の結果、営業利益に営業外収益・費用を加減算した経常損失は521百万円(前事業年度は経常利益633百万円)となりました。売上高経常利益率は1.6%(前事業年度は3.0%)となりました。

(特別利益・損失)

当事業年度は、特別利益として、受取保険金4百万円を計上いたしました。

特別損失として、固定資産除却損11百万円、固定資産圧縮損3百万円を計上いたしました。

(税引前当期純利益)

経常損失から特別利益・損失を加減算した税引前当期純損失は、531百万円(前事業年度は税引前当期純利益632百万円)となりました。

(法人税、住民税及び事業税等)

繰延税金資産の計上による影響及び過年度において発生した税務上の繰越欠損金の影響等により、税効果会計適用後の法人税等の負担率は、1.31%となりました。

(当期純利益)

以上の結果、当期純損失は524百万円(前事業年度は当期純利益681百万円)となりました。売上高当期純利益率は1.6%、1株当たり当期純損失は19円17銭、自己資本当期純利益率は4.5%となりました。

なお、当事業年度の目標とする経営指標である経常利益の黒字化を達成しておりません。

資本の財源及び資金の流動性

(キャッシュ・フロー)

当事業年度のキャッシュ・フローの分析につきましては、「(1)業績等の状況の概要、キャッシュ・フローの状況」をご参照ください。

(契約債務)

2019年3月31日現在の契約債務の概要は以下のとおりであります。

契約債務	年度別要支払額(百万円)				
	合計	1年以内	1年超3年以内	3年超5年以内	5年超
長期借入金	2,400	300	600	600	900
リース債務	142	142	-	-	-

(注)1年内返済予定の長期借入金は、長期借入金に含めております。

(財務政策)

当社は、運転資金及び設備投資資金の調達を行うため主要取引金融機関5行とシンジケートローン契約を締結しております。

・借入残高 2,400百万円

・コミットメントラインの総額 2,000百万円(借入実行残高-百万円)

また、設備投資資金の調達を行うため2018年12月18日を払込期日とする公募及び第三者割当による新株式の発行、2019年1月17日を払込期日とする第三者割当による新株式の発行を実施し、資金調達を行っております。

・公募及び第三者割当による新株式の発行による資金調達額 6,752百万円

経営成績に重要な影響を与える要因についての分析

(たな卸資産)

当社は、「棚卸資産の評価に関する会計基準」を適用しており、将来需要及び市場環境により評価損の計上が必要となる可能性があります。

(固定資産の減損)

当社が有する固定資産のうち、「固定資産の減損に係る会計基準」において対象とされるものについては、損益報告や経営計画などの企業内部の情報、経営環境や資産の市場価格などの企業外部の要因に関する情報に基づき、資産又は資産グループ別に減損の兆候の有無を確認し、企業環境の変化や経済事象の発生によりその帳簿価額の回収が懸念されているかなど、減損損失の認識を判定しております。

この判定により減損損失を認識すべきと判断した場合には、その帳簿価額を回収可能価額まで減損処理を行っております。事業計画や経営・市場環境の変化により、回収可能価額が変更された場合には、減損損失の金額の増加又は新たな減損損失の認識の可能性があります。

(繰延税金資産)

当社は、繰延税金資産について評価性引当額を計上することによって回収可能性のある金額としております。評価性引当額は将来の課税所得及び慎重かつ継続的な税務計画を検討して計上しております。繰延税金資産については、将来減算の見込みが高い一時差異等に対して、法定実効税率に基づいて計上しております。また、繰延税金資産の全部又は一部を将来回収できないと判断した場合、当該判断を行った期間に繰延税金資産の調整額を費用として計上する必要が生じる可能性があります。

4【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5【研究開発活動】

当社は「環境とエネルギーをキーワードとして社会に貢献する企業」という経営理念を掲げ、蓄電デバイス用材料の開発を中心に研究開発活動を行っております。

蓄電デバイスとしては、化学電池分野を中心に民生用途及び車載用途のニッケル水素電池並びにリチウムイオン電池であり、これらの二次電池に用いられる正極材料の研究開発活動が中心となっております。

昨今、民生用途においてはスマートフォンを含むタブレット機器の需要の伸長が一段落していることもあり、全体として成長率は鈍化しているものの、電動工具・定置用蓄電池向けなど用途拡大による需要増加の期待も出てきております。また車載用途においては各自動車メーカーで新車種の販売が活発化しており、充電インフラの整備の促進や1回の充電での走行距離を伸ばす為の電池材料及び電池の開発が急がれております。いずれの市場におきましても、高エネルギー密度化、長寿命化及び高信頼性・安全性に加えて低コスト化の要求がますます強くなっております。

当社はこのようなニーズに的確に応えるために、新プロセス技術開発のみならず、より高度な材料解析技術や電気化学評価技術なども活用しながら、既存材料の改良、さらには次世代新規材料の研究開発を推進しております。

研究開発活動における基本スタンスは、粒子形状制御、複数元素共沈、粒子径制御、結晶制御、表面コーティング、化学酸化等のコア技術を基盤に顧客ニーズ・市場ニーズを融合させ、さらなるブラッシュアップを図り、積極的に技術を提案することであります。

また、材料設計に関する基礎科学的な知見の収集と整理による種々の化学反応過程の可視化を通じた、生産過程の合理化に必要な研究開発も実施しております。

研究開発活動に従事する人員は、2019年3月31日現在管理職を含めて29名であります。当事業年度の研究開発費の総額は682百万円（売上高比2.1%）となっております。（損益計算書上は試作品売却収入127百万円を控除した555百万円を計上しております。）なお、当社は二次電池事業の単一セグメントであるため、セグメントごとに記載しておりません。

当事業年度における各研究開発の目的、主要課題及び研究成果は次のとおりであります。

リチウムイオン電池用正極材料の研究開発

民生用リチウムイオン電池は、スマートフォンを含むタブレット機器の普及による、薄型・軽量化・高容量化などの要求とともに、電動工具・定置用蓄電池向けなど用途拡大により、高出力化・長寿命化などの要求が高まっております。一方、車載用途を中心とした中・大型リチウムイオン電池用途では、高容量、高出力、長寿命、高安全及び低コストといった正極材料を強く要望されております。

これらの幅広い要求を充足させるために、当社の主力製品であります三元系（ニッケル、コバルト、マンガン）正極材料を基本に、よりニッケルの比率を高める等の組成改良によって高容量化を図るとともに、水酸化ニッケルの開発時に培った異種元素固溶や表面修飾といった技術を用いることにより、より優れた性能を発揮することを目指した材料の開発ならびに新たなプロセス技術開発も行っております。2013年3月からは、住友化学との資本業務提携により車載用途を中心とした次世代リチウムイオン二次電池の正極材料の共同開発・人材交流がスタートし、また2016年10月末にはさらなる資本関係の強化とともに、従来以上の両社研究要員の交流促進等による共同開発体制の一体化により、開発促進に向けたシナジー効果の発現を目指し取り組みを行っております。

ニッケル水素電池用正極材料の研究開発

ニッケル水素電池は、サイクル特性の向上や長寿命化など引き続き特性向上が求められております。特に環境対応車や定置用途などの中・大型電池用途においては、長期信頼性・耐久性が求められております。

現在、顧客ニーズに応えるべく材料の結晶性や表面状態の制御などの改良を進め、新技術の製品への展開を順次図っております。特に、水酸化ニッケルコバルトコート表面処理品について、コア材料の水酸化ニッケルへの添加元素の最適化や結晶性改良等、粉体特性の最適化を図り、さらなる電池特性の向上に向けた取り組みを進めております。

新規分野の研究開発

基本的には環境・エネルギービジネス分野において、当社のコア技術を適用することが可能な新たなアイテムにつきまして鋭意マーケティングを行い、提案型研究開発活動を行ってまいります。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当事業年度の設備投資額は5,248百万円で、原料溶解設備、生産能力及び生産効率改善対応の設備を中心に投資を行いました。

主な投資としてリチウムイオン電池向け製品生産設備2,402百万円、ニッケル水素電池向け製品生産設備285百万円、研究開発設備175百万円、原料溶解設備931百万円、品質保証設備632百万円の設備投資を実施いたしました。

なお、当事業年度中において生産能力に重要な影響を及ぼす設備の除却、撤去等はありません。

また、当社は二次電池事業の単一セグメントであるため、セグメントごとに記載しておりません。

2【主要な設備の状況】

当社の主要な設備は、以下のとおりであります。

2019年3月31日現在

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
		建物及び構築物 (千円)	機械及び装置、 車両運搬具 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	その他 (千円)	合計(千円)	
本社 (福井県福井市)	統括業務施設	151,242	0	福井工場用地 に含む	8,540	159,782	23 (3)
福井工場 (福井県福井市)	無機化学製品 製造設備	1,921,851	2,892,754	1,230,237 (82,820.84)	171,873	6,216,717	204 (37)
大阪支社 (大阪府大阪市中央区)	販売業務施設	989	-	-	361	1,351	4 (2)
東京事務所 (東京都品川区)	統括業務施設	-	-	-	102	102	-
物流センター (福井県坂井市)	物流倉庫設備	11,342	1,485	33,288 (991.74) [5,010.10]	0	46,116	-

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品であり、建設仮勘定は含んでおりません。なお、金額には消費税等を含めておりません。

2. 上記の[]は、外書で賃借中のものであります。

3. 物流センターには、貸与中の建物1,063千円を含んでおります。

4. 従業員数の()は、外書で臨時雇用者数を示しております。

3【設備の新設、除却等の計画】

当事業年度末現在における重要な設備の新設及び除却等の計画は、次のとおりであります。

(1) 重要な設備の新設

事業所名 (所在地)	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方 法	着手及び完了予定年月		完了後の 増加能力
		総額 (千円)	既支払額 (千円)		着手	完了	
福井工場 (福井県福井市)	リチウムイオン電池向け 製品増産設備	4,150,000	941,535	自己資金及び 借入金	2018年8月	2019年7月	900 t / 月
福井工場 (福井県福井市)	リチウムイオン電池向け 製品増産設備	7,500,000	-	自己資金及び 借入金	2019年4月	2020年6月	1,200 t / 月
福井工場 (福井県福井市)	ニッケル水素電池向け 製品増産設備	1,350,000	-	自己資金及び 借入金	2019年4月	2019年11月	190 t / 月

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	47,000,000
計	47,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (2019年3月31日)	提出日現在発行数(株) (2019年6月28日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	32,533,000	32,533,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	32,533,000	32,533,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2014年6月20日 (注)1	-	13,900,800	-	2,300,621	715,052	1,454,150
2015年1月15日 (注)2	950,000	14,850,800	191,900	2,492,521	191,900	1,646,050
2015年6月19日 (注)3	-	14,850,800	-	2,492,521	1,646,050	-
2016年10月31日 (注)4	10,500,000	25,350,800	3,286,500	5,779,021	3,286,500	3,286,500
2018年12月18日 (注)5	6,918,400	32,269,200	3,255,273	9,034,294	3,255,273	6,541,773
2019年1月17日 (注)6	263,800	32,533,000	120,933	9,155,228	120,933	6,662,707

(注)1. 資本準備金の減少は、欠損補填によるものであります。

2. 2015年1月15日を払込期日とする第三者割当による新株式の発行により、発行済株式総数が950,000株、資本金及び資本準備金がそれぞれ191,900千円増加しております。

割当先	住友化学
発行価額	404円
資本組入額	202円

3. 資本準備金の減少は、欠損補填によるものであります。

4. 2016年10月31日を払込期日とする第三者割当による新株式の発行により、発行済株式総数が10,500,000株、資本金及び資本準備金がそれぞれ3,286,500千円増加しております。

割当先 住友化学
発行価額 626円
資本組入額 313円

5. 2018年12月18日を払込期日とする公募及び第三者割当による新株式の発行により、発行済株式総数が6,918,400株、資本金及び資本準備金がそれぞれ3,255,273千円増加しております。

公募

発行数 3,211,200株
発行価額 916.86円
資本組入額 458.43円

第三者割当

発行数 3,707,200株
割当先 住友化学
発行価額 962円
資本組入額 481円

6. 2019年1月17日を払込期日とする第三者割当による新株式の発行により、発行済株式総数が263,800株、資本金及び資本準備金がそれぞれ120,933千円増加しております。

割当先 S M B C 日興証券
発行価額 916.86円
資本組入額 458.43円

(5) 【所有者別状況】

2019年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	10	34	85	61	20	13,670	13,880	-
所有株式数(単元)	-	17,145	7,022	170,591	6,302	93	124,073	325,226	10,400
所有株式数の割合(%)	-	5.27	2.16	52.45	1.94	0.03	38.15	100	-

(注) 自己株式1,086株は、「個人その他」に10単元及び「単元未満株式の状況」に86株を含めて記載しております。

(6) 【大株主の状況】

2019年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
住友化学(株)(常任代理人 日本ト ラスティ・サービス信託銀行(株))	東京都中央区新川2-27-1(東京都中央 区晴海1-8-11)	16,407	50.43
田中 保	福井県福井市	1,264	3.89
(株)三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	460	1.41
田中 浩	東京都練馬区	300	0.92
(株)福井銀行(常任代理人 資産管 理サービス信託銀行(株))	福井県福井市順化1-1-1(東京都中央 区晴海1-8-12 晴海アイランドトリ ンスクエアオフィスタワーZ棟)	300	0.92
住友商事(株)	東京都千代田区大手町2-3-2	250	0.77
日本マスタートラスト信託銀行株 式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	215	0.66
住友生命保険相互会社(常任代理 人 日本トラスティ・サービス信 託銀行(株))	東京都中央区築地7-18-24(東京都中 央区晴海1-8-11)	210	0.65
田中 弘	福井県坂井市	172	0.53
田中 学	福井県福井市	171	0.53
計	-	19,750	60.71

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 32,521,600	325,216	-
単元未満株式	普通株式 10,400	-	1単元(100株)未満の 株式
発行済株式総数	32,533,000	-	-
総株主の議決権	-	325,216	-

【自己株式等】

2019年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(株)田中化学研究所	福井県福井市白方町 45字砂浜割5番10	1,000	-	1,000	0.00
計	-	1,000	-	1,000	0.00

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	49	62,426
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式には、2019年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (-)	-	-	-	-
保有自己株式数	1,086	-	1,086	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、2019年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの買取り及び売渡による株式は含まれておりません。

3【配当政策】

当社は、株主各位に対する利益還元を経営の重要課題とし、安定した配当を極力維持するとともに、業績に応じた増配等の株主優遇策を実施していくことを利益配分の基本方針としております。

当社は、剰余金の配当を年1回あるいは年2回行うことを基本としており、当社定款にその決定機関を期末配当については株主総会、中間配当については取締役会とする旨を定めております。

当事業年度の配当につきましては、繰越利益剰余金がマイナスであることを勘案し、誠に遺憾ながら無配といたしました。

4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、株主の皆様を中心とした様々なステークホルダーの利益に適うようにすることが、コーポレート・ガバナンスの基本であると認識しており、これを実現するため、「意思決定の迅速化」「企業行動の透明性の確保」「アカウンタビリティーの充実」に取り組んでおります。

企業統治の体制

・企業統治の体制の概要

1) 取締役会

取締役会は毎月定例的に開催しております。取締役会は取締役5名（うち社外取締役1名）で構成されており、監査役3名（全員社外監査役）も出席し、法定事項のほか重要な経営方針及び重要事項の決定と業務執行状況の報告が行われております。また、経営責任を明確にし、経営環境の変化に迅速に対応できる経営体制を構築する為に、取締役の任期を1年としております。

2) 執行役員制度

当社では、経営管理組織整備の一環として執行役員制度を導入し、経営意思決定の充実及び業務執行の迅速化を図っております。執行役員は取締役(1名)を含む5名としております。

3) 執行役員会議

執行役員によって構成される執行役員会議は業務執行に関する最高の意思決定機関として、毎月2回定例的に経営目標達成の為に課題整理と対処の方針の決定、重要稟議事項等に関する迅速な意思決定を行っております。

4) 監査役会制度

当社は監査役会制度を採用しております。監査役3名は、常勤・非常勤を問わず全員を社外監査役として、高度な独立性を保持しております。また、監査役は定期的に監査役会を開催し、重要会議への出席、稟議決裁書類閲覧等による経営情報への十分なアクセスを確保するとともに、取締役会への出席を通して経営に対する監督、牽制機能の強化を図っております。

5) 内部監査

内部監査部門として内部監査室（人員1名）を設置しております。内部監査室は監査計画に基づいた内部監査、特命事項に関する内部監査を実施し、社内各部門の業務執行状況のチェックと不正や過誤の防止に努めております。

6) 会計監査

会計監査につきましては、有限責任監査法人トーマツを監査人に選任しております。

7) 社外役員審議委員会

当社と親会社グループとの取引の公正性及び透明性を確保するとともに、当社の少数株主の利益の保護に資することを目的として、取締役会の諮問機関として社外役員審議委員会の設置を2017年5月12日の取締役会において決定しました。

親会社グループと当社との間の取引に利益が実質的に相反する事項が含まれる場合には、社外役員審議委員会において審議し、結果を取締役に報告します。

8) コンプライアンス委員会

当社ではコンプライアンスを経営の根幹であると考えており、代表取締役直属の組織としてコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスの周知・徹底を図っております。委員は取締役会にて選任することとしており、委員長を社長執行役員、委員を総務人事担当役員、常勤監査役、総務人事部長、内部監査室長とし、その他必要に応じて委員長が他のメンバーを選任できることとしております。

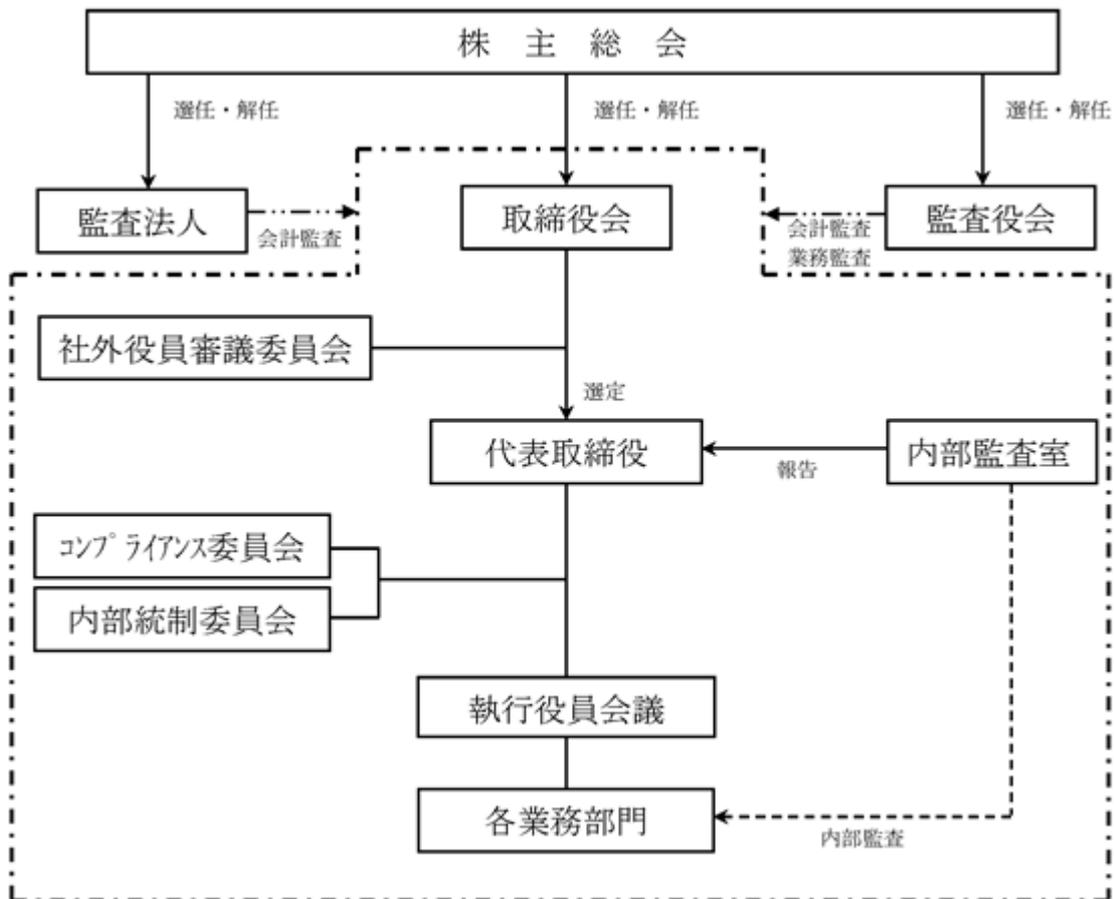
9) 内部統制委員会

内部統制委員会は、内部統制監査の結果に基づく複数部署間に対する包括的な是正措置に関する対応、その他内部統制に関する課題対策を協議・立案する代表取締役直属の組織です。事業支援室担当役員を委員長とし、委員及び内部統制事務局メンバーは委員長が任命することとしております。

役職名	氏名	取締役会	監査役会	執行役員会議	社外役員審議 委員会	コンプライアンス 委員会	内部統制 委員会
取締役会長	茂莉 雅宏	○					
代表取締役社長 執行役員	横川 和史						
社外取締役	久野 和雄	○					
取締役	小坂 伊知郎	○					
取締役	田中 浩	○					
常勤監査役	大嶋 哲夫	○			○	○	
監査役	増田 仁視	○	○		○		
監査役	井上 毅	○	○		○		
副社長執行役員 兼 総務人事部長	大畑 尚志			○		○	
執行役員	嶋川 守			○			
執行役員	田中 学			○			
執行役員	中根 堅次			○			
内部監査室長	牧野 哲司					○	

(注) 機関ごとの構成員は上記のとおりであります。(○ は議長、委員長、 はオブザーバーを表す。)

当社のコーポレート・ガバナンス体制及び内部管理体制を図式化すると次のとおりです。



・企業統治の体制を採用する理由

当社は、経営の公正性と透明性の確保の重要性を認識し、諸施策に取り組んでおります。コーポレート・ガバナンスのあり方については、現行の統治機構が効率的でかつ十分機能していると判断しておりますが、今後、企業規模や経営環境の変化等に対し、意思決定の迅速性、監視機能の実効性等を勘案しながら検討していきたいと考えております。

・内部統制システムの整備の状況

当社は、コーポレートガバナンス強化の一環として内部管理体制の整備・強化に取り組んでおります。今後も健全で持続的な発展を目指して内部統制システムを整備し運用することが経営上の重要な課題であると考え、会社法及び会社法施行規則に従い、次のとおり「内部統制システムの整備の基本方針」を決定し、もって業務の有効性、効率性及び適正性を確保し、企業価値の維持・増大につなげるべく努力いたしております。

1) 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社は、取締役及び使用人の職務の遂行が法令、社会規範、定款及び社内規程に適合すること（以下「コンプライアンス」という）を確保するための体制として、取締役会、社外取締役、監査役会、内部監査部門並びにコンプライアンス委員会がそれぞれの機能を最大限に発揮しつつ相互に連携して目的の達成に努力する体制を基本としております。

イ．取締役会は法令遵守のための体制を含む内部統制システムの整備についての基本方針を決定するとともに、定期的に整備状況の確認を行います。

ロ．取締役会には、最低1名以上の社外取締役を継続して選任することにより、取締役の職務執行の監督機能の維持・向上を図ります。

ハ．監査役会を構成する監査役は、独立した立場から、内部統制システムの整備・運用状況を含め取締役の職務執行を監査いたします。

ニ．内部監査部門は、監査を通じて各部門の職務の執行が法令、定款並びに社内規程に適合していることを確認いたします。

ホ．コンプライアンス委員会は、コンプライアンス管理規程及びコンプライアンスに関する規程の制定、改廃に関する取締役会への付議、コンプライアンスに関連する役職員の行動規範として「コンプライアンス・マニュアル」の整備並びに研修実施等により取締役及び使用人のコンプライアンス意識の維持・向上を図ります。また、役職員が法令違反の疑義のある行為等を発見した場合には、速やかにコンプライアンス委員会に報告される体制を構築している上、匿名が保障された内部通報制度を設け、従業員に対して制度利用の働きかけを強化しております。

2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役会、執行役員会議その他重要な会議の意思決定にかかわる情報、社長及び担当役員決裁その他の重要な決裁にかかわる情報を記録し、文書管理規程に従って保存・管理したうえ、必要な関係者が閲覧できる体制を構築しております。

3) 損失の危機の管理に関する規程その他の体制

イ．経営に関する重大な影響を及ぼすリスクを全体的に認識、評価、対応する仕組みを構築しており、リスク管理に関する規程を運用し、平時における事前予防体制と有事における迅速な対応並びに再発防止策を講じる体制のもと取り組んでおります。

ロ．内部監査部門は、全社のリスク管理状況をレビューするため、各部署のリスク管理状況を監査し、定期的に執行役員、関連部門長及び常勤監査役に報告しております。

ハ．当社経営におけるリスクのうち、収益に最も影響の大きい主原料価格リスクについては、原料部において価格リスクを持つ数量の把握を行う一方、経理・システム部において包括的に状況を把握する体制のもと取り組んでおります。

4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社は、以下の職務権限、意思決定ルール及び経理管理システムを用いて、取締役の職務執行の効率化を図ります。

イ．取締役会は、取締役の職務執行が効率的に行われるよう職務権限（取締役に対する権限委譲を含む）と意思決定ルールを関連社内規程に定め、権限と責任を明確にしております。これらの社内規程の改廃は取締役会の決定によります。また、業務の簡素化、組織のスリム化及びITの適切な利用を通じて、業務の効率化を推進しております。

ロ．取締役会は、中期経営計画を策定し、毎事業年度において中期経営計画との整合性を持たせた年度事業計画と部門別重点施策を策定のうえ、その執行を監督いたします。

5) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

取締役は、監査役の求めにより、監査役の職務を補助する使用人（以下「監査役スタッフ」という）として適切な人材を配置いたします。

6) 前項の使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査役スタッフの適切な職務遂行のため、監査役スタッフは取締役の指揮命令を受けないものとしております。

7) 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する事項

取締役及び使用人は、監査役に対して、法定の事項に加え、全社的に重大な影響を及ぼす事項、内部監査の実施状況、内部通報制度を利用した通報の状況及びその内容、その他監査役が職務遂行上報告を受ける必要があると判断した事項について速やかに報告、情報提供を行うものいたします。

8) 前項の報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

当社は「コンプライアンス管理規程」の下に「内部通報細則」を定め、当該報告をしたことを理由に不利な取扱いをしないことを定めております。

9) 監査役職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項

監査役が職務の執行につき、費用の前払等を請求したときは、請求に係る費用又は債務が当該監査役の職務の執行に関係ないと認められる場合を除き、速やかに当該費用又は債務を処理するものいたします。

10) その他監査役職務の執行が実効的に行われることを確保するための体制

イ．代表取締役と監査役は、相互の意思疎通を図るため、定期的な会合を持つこととしております。

ロ．取締役は、監査役が必要と認めた重要な取引先の調査にも協力いたします。

ハ．取締役は、監査役職務の遂行にあたり、監査役が必要と認めた場合に、弁護士、公認会計士等の外部専門家との連携を図れる環境を整備するものとしております。

11) 反社会的勢力排除に向けた基本方針及びその整備状況

イ．反社会的勢力排除に向けた基本方針

当社は、社会的秩序や企業の健全な活動に脅威を与える反社会的勢力とは一切の関係を持たず、また不当な要求に対しては、毅然とした姿勢で組織的に対応することとしております。

ロ．反社会的勢力排除に向けた整備状況

反社会的勢力との関係を遮断する取組みを一層推進するため、対応統括部署を総務人事部と定め、不当要求防止責任者を配置するとともに社内体制の整備・強化を図っております。

また、総務人事部を窓口として平素より所轄警察署及び外部専門機関などと連携することにより反社会的勢力の排除に向けた情報収集並びに共有化に努め、社内への周知徹底及び注意喚起を行っております。

・リスク管理体制の整備の状況

1) コンプライアンス委員会の設置

事業活動において役職員が法令、社会規範及び社内規程を遵守した行動を取るための体制を構築し、その実践を推進することを目的として、社長執行役員を委員長とするコンプライアンス委員会を設置しております。

2) 内部統制委員会の設置

財務報告に係る内部統制体制の構築及びその有効性を継続的に評価する体制を整備することを目的として、「財務報告に係る内部統制基本規程」を制定し、内部統制委員会を設置しております。

株主総会決議事項を取締役会で決議することができることとした事項

1) 自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって自己株式の取得をできる旨を定款に定めております。これは、自己株式の取得が機動的に行えることを目的とするものであります。

2) 中間配当

当社は、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

取締役の定数

当社の取締役は7名以内とする旨を定款に定めております。

取締役の選任及び解任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨定款に定めております。

解任決議について、会社法第341条の規程により、議決権を行使することができる株主の議決権の過半数を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行われます。

責任限定契約の内容の概要

当社は、「業務執行を行わない取締役」及び「監査役」との間で、会社法第427条第1項の規定により、同法第423条第1項に定める損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく賠償責任の限度額は、法令の定める最低責任限度額としております。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性 8名 女性 -名 (役員のうち女性の比率 - %)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役 会長	茂蒔 雅宏	1952年10月2日生	1975年4月 住友商事株式会社入社 2001年9月 当社入社 2004年6月 取締役 2008年4月 取締役 執行役員 2012年7月 取締役 常務執行役員 2016年4月 取締役 専務執行役員 2017年6月 代表取締役 社長執行役員 2019年6月 取締役 会長(現任)	(注)3	13
代表取締役 社長執行役員	横川 和史	1961年3月30日生	1985年4月 住友化学工業株式会社 (現住友化学株式会社)入社 1991年9月 ドイツ・ミュンヘン大学派遣 1993年10月 派遣免 2014年4月 大分工場医薬化学品生産技術 部長 2015年4月 大阪工場長 2017年4月 理事 大阪工場長 2019年4月 当社入社 2019年6月 代表取締役 社長執行役員 (現任)	(注)3	-
取締役	久野 和雄	1950年4月2日生	1973年4月 三宝伸銅工業株式会社 (現三菱伸銅株式会社)入社 1982年3月 取締役 1996年10月 代表取締役 社長 2001年3月 取締役 会長 2002年3月 取締役 相談役 2002年6月 二チエス株式会社 代表取締役 社長(現任) 2003年6月 当社取締役(現任) 2008年3月 三宝伸銅工業株式会社 取締役 相談役退任	(注)3	10
取締役	小坂 伊知郎	1961年7月18日生	1986年4月 住友化学工業株式会社 (現住友化学株式会社)入社 2006年6月 化成品事業部部長 2011年10月 化成品事業部部長 2015年4月 理事 化成品事業部部長 2018年4月 執行役員(現任) 2018年6月 当社 取締役(現任)	(注)3	-
取締役	田中 浩	1953年7月3日生	1978年4月 東京海上火災保険株式会社入社 2006年7月 双日インシュアランス株式会社 入社 2013年7月 当社入社 2018年6月 取締役(現任)	(注)3	300

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役	大嶋 哲夫	1955年6月8日生	1978年4月 住友商事株式会社入社 2003年10月 東京物流部長 2006年4月 理事 物流保険事業本部長 2008年4月 理事 物流保険事業本部参事 2008年4月 住商グローバル・ロジスティックス株式会社 取締役 副社長 執行役員 2010年3月 理事 (上海)物流保険事業本部参事 2010年3月 SUMISHO GLOBAL LOGISTICS (SHANGHAI)CO.,LTD 董事長兼総経理 2015年4月 理事 環境・インフラ事業部門 長付 2015年6月 当社 社外監査役(現任)	(注)4	9
監査役	増田 仁視	1952年4月23日生	1977年4月 公認会計士伊藤満邦事務所入所 1982年6月 公認会計士増田仁視事務所所長(現任) 1994年6月 アイテック株式会社監査役(現任) 2011年6月 当社 社外監査役(現任) 2016年3月 日華化学株式会社 社外監査役(現任) 2016年6月 日本公認会計士協会 北陸会 福井県部会 部会長(現任)	(注)4	22
監査役	井上 毅	1965年9月18日生	1997年4月 弁護士登録 井上法律事務所開業(現任) 2008年4月 福井弁護士会民事介入暴力対策委員会 委員長(現任) 2010年4月 福井弁護士会 会長 2011年10月 福井地方労働審議会委員(現任、会長) 2012年5月 福井県労働委員会委員(現任) 2019年6月 当社 社外監査役(現任)	(注)4	-
計					355

- (注) 1. 取締役久野和雄氏は、社外取締役であります。
2. 監査役3名は、社外監査役であります。
3. 2019年3月期に係る定時株主総会終結の時から2020年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
4. 2019年3月期に係る定時株主総会終結の時から2023年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
5. 当社は、法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠監査役1名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (千株)
中村 淳	1976年9月2日生	2007年9月 弁護士登録 中村法律事務所開業 2011年1月 高志法律事務所開業(現任) 2013年4月 福井市建築審査会 委員(現任) 2013年10月 福井紛争調整委員会 委員(現任) 2014年4月 福井弁護士会 副会長 2018年6月 株式会社オールコネクト 監査役(現任) 2018年8月 日本司法支援センター福井地方事務所 副所長(現任)	-

(注) 補欠監査役の任期は、就任した時から退任した監査役の任期の満了の時までであります。
社外役員の状況

当社の社外取締役は1名、社外監査役は3名であります。

当社との間には株式所有（社外取締役 久野和雄氏 10千株所有、社外監査役 大嶋哲夫氏 9千株所有、増田仁視氏 22千株所有、井上毅氏 所有無し）以外の人的関係、資本的關係及び取引関係はありません。

また、社外取締役及び社外監査役の兼職先と当社との間には人的関係、資本的關係及び取引関係はありません。

当社は社外取締役及び社外監査役には高い独立性を保つため、当社と取引上の利害関係がない人物を選任することを方針としております。当社の事業規模等を勘案し、現在の選任状況は十分であると考えております。

社外取締役は、取締役会等に出席し、経営者としての豊富な経験と幅広い見識を当社の経営に反映しております。また、社外監査役は、取締役会や監査報告会等に出席し、これまで培ってきたビジネス経験、若しくは経営者としての豊富な経験と幅広い見識を当社の監査体制の強化に生かしております。

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役は内部監査部門、監査役及び会計監査人の監査における重要な事項について報告を受けており、必要に応じ監査担当者及び内部統制部門にヒアリングを実施するなど、経営の監督機能の向上を図っております。また、社外監査役は前項記載のとおり内部監査部門や会計監査人と連携して監査役監査を実施するとともに、内部統制委員会へのオブザーバーとしての参画や、必要に応じ内部統制部門にヒアリングを実施するなど、牽制機能の強化を図っております。

（3）【監査の状況】

監査役監査及び内部監査の状況

監査役（人員3名）は、会計監査人と期の初めに年間の監査実施計画について打ち合わせを行い、その監査の状況について随時報告を受けており、期末には決算の内容につき詳細な報告を受けております。また、内部監査部門としての内部監査室（人員1名）が実施する各業務部門に対する監査報告会に監査役が出席し、業務執行における改善点等に関する助言を行っております。さらに、内部監査部門から指摘があった場合には、内部統制委員会を開催し改善措置を講じる体制を整備しております。

また、常勤監査役は会計監査報告を受けるなど、会計監査人との連携をとっております。

なお、監査役増田仁視氏は、公認会計士の資格を有し、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

会計監査の状況

1) 監査法人の名称

有限責任監査法人トーマツ

2) 業務を執行した公認会計士

指定有限責任社員 業務執行社員 加藤博久

指定有限責任社員 業務執行社員 高村藤貴

3) 監査業務に係る補助者の構成

公認会計士7名、その他2名

4) 監査法人の選定方針と理由

監査役会は、同監査法人の規模、経験等の職務遂行能力および独立性、内部管理体制等を総合的に勘案した結果、適任と判断いたしました。

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨及びその理由を報告いたします。

5) 監査役及び監査役会による監査法人の評価

監査役会は、同監査法人の監査の方法及び結果は相当であると評価しております。

監査報酬の内容等

1) 監査公認会計士等に対する報酬

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)	監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)
20,000	-	22,000	2,500

2) 非監査業務の内容

当社は会計監査人に対して、公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務であるコンフォートレター作成業務についての対価を支払っております。

3) 監査公認会計士等と同一のネットワークに属する組織に対する報酬(1)を除く。))

該当事項はありません。

4) その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

5) 監査報酬の決定方針

監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針は策定しておりませんが、監査公認会計士等からの見積提案をもとに、監査計画、監査内容、監査日数等の要素を勘案して検討し、監査役会の同意を得て決定する手続きを実施しております。

6) 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

監査役会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算出根拠等が適切であるかどうかについて必要な検証を行ったうえで、会計監査人の報酬等の額について同意の判断をいたしました。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

取締役及び監査役の報酬については、業界水準や業績等を勘案した固定報酬制としております。

取締役の報酬等の決定権限を有する者は代表取締役社長執行役員であり、取締役会において業績と取締役の職務執行状況の観点から討議を行い、そこで得られた意見をふまえて決定しております。なお、取締役の報酬限度額は、2008年6月27日の第52期定時株主総会において年額150,000千円以内と決議いただいております。

監査役の報酬等については、監査役間協議により決定しております。なお、監査役の報酬限度額は、1996年6月20日の第40期定時株主総会において年額50,000千円以内と決議いただいております。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)		対象となる 役員の員数 (人)
		固定報酬	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	58,674	58,674	-	6
社外役員	22,272	22,272	-	4

(注) 監査役3名は、全員が社外監査役であります。

報酬等の総額が1億円以上である者の報酬等の総額等

該当事項はありません。

使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの

該当事項はありません。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、投資株式について、もっぱら株式の価値の変動または配当の受領によって利益を得ることを目的として保有する株式を純投資目的である投資株式、それ以外の株式を純投資目的以外の目的である投資株式（政策保有株式）に区分しております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

1) 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

政策投資目的で保有する株式については、成長性、収益性、取引関係強化等の観点から、保有意義・経済合理性を検証し、保有の妥当性が認められない場合には、取引先企業の十分な理解を得た上で、売却を進めます。また、妥当性が認められる場合にも、残高削減の基本方針に則し、市場環境や経営・財務戦略等を考慮し、売却することがあります。

2) 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)
非上場株式	5	32,075
非上場株式以外の株式	-	-

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(千円)	株式数の増加の理由
非上場株式	-	-	-
非上場株式以外の株式	-	-	-

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(千円)
非上場株式	-	-
非上場株式以外の株式	-	-

保有目的が純投資目的である投資株式

区分	当事業年度		前事業年度	
	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)
非上場株式	-	-	-	-
非上場株式以外の株式	3	42,457	3	47,538

区分	当事業年度		
	受取配当金の 合計額(千円)	売却損益の 合計額(千円)	評価損益の 合計額(千円)
非上場株式	-	-	-
非上場株式以外の株式	1,533	-	22,626

第5【経理の状況】

1．財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（1963年（昭和38年）大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、当事業年度（2018年4月1日から2019年3月31日まで）の財務諸表に含まれる比較情報のうち、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（2018年（平成30年）3月23日内閣府令第7号。以下「改正府令」という。）による改正後の財務諸表等規則第8条の12第2項第2号及び同条第3項に係るものについては、改正府令附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度（2018年4月1日から2019年3月31日まで）の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる監査を受けております。

3．連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、連結財務諸表を作成しておりません。

4．財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての的確に対応できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

また、監査法人等の行う研修に参加しております。

1【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	945,108	2,035,756
電子記録債権	3 121,282	3 129,763
売掛金	3,109,448	2,748,772
商品及び製品	1,020,960	1,051,275
仕掛品	1,611,171	1,846,643
原材料及び貯蔵品	1,946,563	1,078,584
前渡金	-	389
前払費用	19,432	21,036
グループ預け金	2,000,000	6,500,000
その他	590,320	652,997
流動資産合計	11,364,290	16,065,219
固定資産		
有形固定資産		
建物	1, 2 3,388,255	1, 2 4,413,371
減価償却累計額	2,352,720	2,441,259
建物(純額)	1,035,535	1,972,112
構築物	2 357,707	2 426,721
減価償却累計額	302,236	313,408
構築物(純額)	55,471	113,312
機械及び装置	2 14,950,504	2 16,740,044
減価償却累計額	13,599,719	13,855,649
機械及び装置(純額)	1,350,785	2,884,394
車両運搬具	2 77,851	2 88,221
減価償却累計額	77,260	78,375
車両運搬具(純額)	591	9,845
工具、器具及び備品	2 376,205	2 546,148
減価償却累計額	347,442	365,269
工具、器具及び備品(純額)	28,763	180,879
土地	1 1,125,321	1 1,263,526
建設仮勘定	1,276,831	3,293,393
有形固定資産合計	4,873,299	9,717,464
無形固定資産		
ソフトウェア	2 7,462	2 4,139
電話加入権	1,947	1,947
その他	721	634
無形固定資産合計	10,131	6,721
投資その他の資産		
投資有価証券	1 79,613	1 74,532
従業員に対する長期貸付金	756	1,595
長期前払費用	8,315	2,697
前払年金費用	3,109	-
繰延税金資産	97,058	113,354
その他	41,181	40,400
貸倒引当金	451	451
投資その他の資産合計	229,583	232,129
固定資産合計	5,113,013	9,956,315
資産合計	16,477,303	26,021,535

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	152,931	471
電子記録債務	486,730	957,079
買掛金	2,544,469	3,606,593
1年内返済予定の長期借入金	1,430,000	1,430,000
リース債務	138,853	142,756
未払金	996,849	2,135,505
未払費用	21,598	23,770
未払法人税等	92,131	46,125
前受金	137	137
預り金	26,035	29,223
賞与引当金	127,006	139,993
設備関係支払手形	12,137	1,729
設備関係電子記録債務	566,017	1,842,022
流動負債合計	5,464,897	9,225,408
固定負債		
長期借入金	1,424,000	1,421,000
リース債務	142,407	-
退職給付引当金	-	1,750
資産除去債務	30,637	31,311
その他	854	641
固定負債合計	2,573,899	2,133,702
負債合計	8,038,797	11,359,111
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,779,021	9,155,228
資本剰余金		
資本準備金	3,286,500	6,662,707
資本剰余金合計	3,286,500	6,662,707
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	644,266	1,169,168
利益剰余金合計	644,266	1,169,168
自己株式	2,015	2,077
株主資本合計	8,419,239	14,646,689
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	19,267	15,734
評価・換算差額等合計	19,267	15,734
純資産合計	8,438,506	14,662,424
負債純資産合計	16,477,303	26,021,535

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
売上高	21,413,106	32,632,135
売上原価		
製品期首たな卸高	976,361	1,020,960
当期製品製造原価	¹ 19,317,881	¹ 31,468,334
合計	20,294,242	32,489,294
他勘定振替高	³ 10,687	-
製品期末たな卸高	1,020,960	1,051,275
製品売上原価	19,262,595	31,438,019
売上総利益	2,150,511	1,194,116
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	178,898	179,556
賞与引当金繰入額	27,081	23,891
退職給付費用	15,753	20,573
減価償却費	29,270	30,484
研究開発費	463,571	555,050
荷造運搬費	190,825	260,740
その他	514,167	617,873
販売費及び一般管理費合計	² 1,419,566	² 1,688,170
営業利益又は営業損失()	730,944	494,053
営業外収益		
受取利息	2,188	2,177
受取配当金	1,771	1,973
仕入割引	1,769	2,282
スクラップ売却益	35	5,846
為替差益	-	24,144
その他	4,097	5,112
営業外収益合計	9,861	41,537
営業外費用		
支払利息	24,488	20,416
株式交付費	-	37,119
為替差損	71,524	-
その他	11,454	11,051
営業外費用合計	107,467	68,586
経常利益又は経常損失()	633,338	521,102
特別利益		
受取保険金	-	4,676
補助金収入	505	-
その他	77	-
特別利益合計	582	4,676
特別損失		
固定資産除却損	⁴ 1,698	⁴ 11,677
固定資産圧縮損	-	⁵ 3,766
その他	20	-
特別損失合計	1,718	15,443
税引前当期純利益又は税引前当期純損失()	632,202	531,870
法人税、住民税及び事業税	56,860	7,780
法人税等調整額	106,449	14,748
法人税等合計	49,589	6,968
当期純利益又は当期純損失()	681,792	524,901

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)		当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費	1	18,101,215	87.9	29,050,571	90.1
労務費		883,898	4.3	1,114,900	3.5
経費		1,617,642	7.8	2,061,831	6.4
当期総製造費用		20,602,756	100.0	32,227,304	100.0
期首仕掛品棚卸高		1,073,883		1,611,171	
合計		21,676,640		33,838,476	
他勘定振替高	2	747,587		523,498	
期末仕掛品棚卸高		1,611,171		1,846,643	
当期製品製造原価		19,317,881		31,468,334	

(注) 1. 経費の主な内訳は次のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
減価償却費(千円)	439,434	559,575
電力料(千円)	430,458	531,452

2. 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
研究開発費(千円) (販売費及び一般管理費)	745,466	519,683
その他(千円)	2,120	3,814
合計(千円)	747,587	523,498

3. 原価計算の方法は工程別総合原価計算を採用しております。

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本合計
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他利益剰余金	利益剰余金合計		
				繰越利益剰余金			
当期首残高	5,779,021	3,286,500	3,286,500	1,326,059	1,326,059	2,015	7,737,446
当期変動額							
当期純利益				681,792	681,792		681,792
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）							
当期変動額合計	-	-	-	681,792	681,792	-	681,792
当期末残高	5,779,021	3,286,500	3,286,500	644,266	644,266	2,015	8,419,239

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額 等合計	
当期首残高	16,195	16,195	7,753,642
当期変動額			
当期純利益			681,792
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	3,072	3,072	3,072
当期変動額合計	3,072	3,072	684,864
当期末残高	19,267	19,267	8,438,506

当事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本						株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	5,779,021	3,286,500	3,286,500	644,266	644,266	2,015	8,419,239
当期変動額							
新株の発行	3,376,207	3,376,207	3,376,207				6,752,414
当期純損失				524,901	524,901		524,901
自己株式の取得						62	62
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）							
当期変動額合計	3,376,207	3,376,207	3,376,207	524,901	524,901	62	6,227,450
当期末残高	9,155,228	6,662,707	6,662,707	1,169,168	1,169,168	2,077	14,646,689

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額 等合計	
当期首残高	19,267	19,267	8,438,506
当期変動額			
新株の発行			6,752,414
当期純損失			524,901
自己株式の取得			62
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	3,533	3,533	3,533
当期変動額合計	3,533	3,533	6,223,917
当期末残高	15,734	15,734	14,662,424

【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益又は税引前当期純損失()	632,202	531,870
減価償却費	493,728	624,117
賞与引当金の増減額(は減少)	31,659	12,987
退職給付引当金の増減額(は減少)	11,981	4,859
受取利息及び受取配当金	3,959	4,150
支払利息	24,488	20,416
為替差損益(は益)	24,214	1,577
株式交付費	-	37,119
固定資産売却損益(は益)	57	-
固定資産除却損	1,698	11,677
固定資産圧縮損	-	3,766
補助金収入	505	-
受取保険金	-	4,676
スクラップ売却益	35	5,846
売上債権の増減額(は増加)	1,306,007	352,196
たな卸資産の増減額(は増加)	1,620,898	602,192
仕入債務の増減額(は減少)	1,108,145	1,380,013
未収消費税等の増減額(は増加)	396,171	42,498
前渡金の増減額(は増加)	221,941	389
その他	28,719	157,646
小計	772,818	2,615,982
利息及び配当金の受取額	3,959	4,150
利息の支払額	24,447	20,387
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	4,845	85,299
補助金の受取額	505	-
保険金の受取額	-	4,676
スクラップ売却による収入	35	5,846
営業活動によるキャッシュ・フロー	797,611	2,524,968
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	333,345	3,210,905
有形固定資産の売却による収入	257	-
その他	1,397	1,721
投資活動によるキャッシュ・フロー	331,690	3,212,626
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	300,000	300,000
株式の発行による収入	-	6,715,295
自己株式の取得による支出	-	62
ファイナンス・リース債務の返済による支出	123,343	138,504
財務活動によるキャッシュ・フロー	423,343	6,276,728
現金及び現金同等物に係る換算差額	24,214	1,577
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,576,859	5,590,647
現金及び現金同等物の期首残高	4,521,968	2,945,108
現金及び現金同等物の期末残高	2,945,108	8,535,756

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 製品・仕掛品・原材料

月次総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(2) 貯蔵品

最終仕入原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 7～35年

機械及び装置 2～12年

(2) 無形固定資産(ソフトウェア)(リース資産を除く)

社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法

(3) リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、将来の支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務見込額から年金資産額を控除した金額を計上しております。

退職給付引当金及び退職給付費用の計算は、退職給付債務の額を原則法に基づき計算し、当該退職給付債務の額と年金財政計算上の数理債務との比(比較指数)を求め、直近の年金財政計算における数理債務の額に比較指数を乗じた金額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

5. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する容易に換金可能であり、かつ価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期的な投資。

6. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2018年(平成30年)3月30日 企業会計基準委員会)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2018年(平成30年)3月30日 企業会計基準委員会)

1. 概要

国際会計基準審議会(IASB)及び米国財務会計基準審議会(FASB)は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、2014年(平成26)年5月に「顧客との契約から生じる収益」(IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606)を公表しており、IFRS第15号は2018年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は2017年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。

企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわせない範囲で代替的な取扱いを追加することとされております。

2. 適用予定日

2022年3月期の期首から適用します。

3. 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であり
ます。

(表示方法の変更)

貸借対照表

前事業年度において、「流動負債」の「支払手形」に含めていた「電子記録債務」は金額の重要性が増したため、当事業年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動負債」の「支払手形」に表示していた639,661千円は、「支払手形」152,931千円、「電子記録債務」486,730千円として組み替えております。

前事業年度において、「流動負債」の「設備関係支払手形」に含めていた「設備関係電子記録債務」は資産の総額の100分の5を超えたため、当事業年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動負債」の「設備関係支払手形」に表示していた578,154千円は、「設備関係支払手形」12,137千円、「設備関係電子記録債務」566,017千円として組み替えております。

損益計算書

前事業年度において、「営業外収益」の「その他」に含めていた「スクラップ売却益」は、営業外収益の100分の10を超えたため、当事業年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

前事業年度において、独立掲記していた「営業外収益」の「受取家賃」は、営業外収益の100分の10以下となったため、当事業年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外収益」の「受取家賃」に表示していた1,532千円、「その他」に表示していた2,601千円は、「スクラップ売却益」35千円、「その他」4,097千円として組み替えております。

キャッシュ・フロー計算書

前事業年度において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた「スクラップ売却による収入」は、金額の重要性が増したため、当事業年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度のキャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示していた28,719千円は、「スクラップ売却による収入」35千円、「スクラップ売却益」35千円、「その他」28,719千円として組み替えております。

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年(平成30年)2月16日。以下「税効果会計基準一部改正」という。)を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更するとともに、税効果会計関係注記を変更しております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」57,729千円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」97,058千円に含めて表示しております。

また、税効果会計関係注記において、税効果会計基準一部改正第3項から第5項に定める「税効果会計に係る会計基準」注解(注8)(評価性引当額の合計額を除く。)及び同注解(注9)に記載された内容を追加しております。ただし、当該内容のうち前事業年度に係る内容については、税効果会計基準一部改正第7項に定める経過的な取扱いに従って記載しておりません。

(貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
建物	951,049千円	920,210千円
土地	1,125,321	1,125,321
投資有価証券	42,214	37,702
計	2,118,585	2,083,234

担保付債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
1年内返済予定の長期借入金	300,000千円	300,000千円
長期借入金	2,400,000	2,100,000
計	2,700,000	2,400,000

2 当事業年度において、保険金の受入れにより圧縮記帳を行った額は次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
建物	-千円	3,766千円
計	-	3,766

なお、固定資産に係る国庫補助金等の受入れによる圧縮記帳累計額は次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
建物	299,036千円	299,769千円
構築物	10,789	10,789
機械及び装置	2,522,518	2,522,518
車両運搬具	2,540	2,540
工具、器具及び備品	35,686	35,686
ソフトウェア	561	561
計	2,871,133	2,871,865

3 電子記録債権譲渡高

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
電子記録債権譲渡高	1,174,434千円	629,451千円

4 財務制限条項

前事業年度（2018年3月31日）

当社の株式会社三菱UFJ銀行を主幹事とするシンジケートローン契約（借入残高2,700,000千円）には、次の財務制限条項が付されており、下記条項に抵触した場合には、期限の利益を喪失する可能性があります。

2017年3月以降に終了する各年度の決算期の末日における借入人単体の貸借対照表における純資産の部の金額を、当該決算期の直前の決算期の末日における借入人単体の貸借対照表における純資産の部の金額の75%の金額以上にそれぞれ維持すること。

本契約締結日以降、全貸付人の貸付義務が終了し、かつ借入人が貸付人及びエージェントに対する本契約上の全ての債務の履行を完了するまで、住友化学株式会社の借入人に対する出資比率が50.10%以上に維持されるようにすること。

当事業年度（2019年3月31日）

当社の株式会社三菱UFJ銀行を主幹事とするシンジケートローン契約（借入残高2,400,000千円）には、次の財務制限条項が付されており、下記条項に抵触した場合には、期限の利益を喪失する可能性があります。

2017年3月以降に終了する各年度の決算期の末日における借入人単体の貸借対照表における純資産の部の金額を、当該決算期の直前の決算期の末日における借入人単体の貸借対照表における純資産の部の金額の75%の金額以上にそれぞれ維持すること。

本契約締結日以降、全貸付人の貸付義務が終了し、かつ借入人が貸付人及びエージェントに対する本契約上の全ての債務の履行を完了するまで、住友化学株式会社の借入人に対する出資比率が50.10%以上に維持されるようにすること。

5 コミットメントライン（融資枠）

当社はコミットメントラインを設定しております。事業年度末の借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
コミットメントラインの総額	2,000,000千円	2,000,000千円
借入実行残高	-	-
差引額	2,000,000	2,000,000

（損益計算書関係）

- 1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。なお、以下の金額は戻入額と切下額を相殺した後のものです。

前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
1,787千円	311,753千円

- 2 一般管理費に含まれる研究開発費の総額は次のとおりであります。

前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
463,571千円	555,050千円

- 3 他勘定振替高は、一般管理費の研究開発費への振替であります。

4 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
建物	81千円	5,748千円
機械及び装置	1,614	5,685
工具、器具及び備品	2	243
計	1,698	11,677

5 固定資産圧縮損の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
建物	- 千円	3,766千円
計	-	3,766

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	25,350,800	-	-	25,350,800
合計	25,350,800	-	-	25,350,800
自己株式				
普通株式	1,037	-	-	1,037
合計	1,037	-	-	1,037

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

該当事項はありません。

当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	25,350,800	7,182,200	-	32,533,000
合計	25,350,800	7,182,200	-	32,533,000
自己株式				
普通株式	1,037	49	-	1,086
合計	1,037	49	-	1,086

(注) 1. 普通株式の発行済株式総数の増加7,182,200株は、公募及び第三者割当による新株の発行による増加であります。

2. 普通株式の自己株式の株式数の増加49株は、単元未満株式の買取による増加であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項
該当事項はありません。

3. 配当に関する事項
該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
現金及び預金勘定	945,108千円	2,035,756千円
グループ預け金	2,000,000	6,500,000
現金及び現金同等物	2,945,108	8,535,756

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引
所有権移転ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主として、二次電池事業における生産設備(機械及び装置)であります。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「3. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2. オペレーティング・リース取引
該当事項はありません。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

- (1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については短期的な預金及び住友化学グループのグループファイナンス等に限定し、また、資金調達については増資及び銀行借入による方針です。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

- (2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である電子記録債権及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されています。当該リスクに関しては、当社の商取引管理規程に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を年度毎に把握する体制としています。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されていますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に時価を把握し、当該企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

営業債務である支払手形、電子記録債務、買掛金並びに未払金、設備関係支払手形、設備関係電子記録債務は、1年以内の支払期日です。

長期借入金は、主に設備投資に必要な資金及び事業資金の調達を目的としたものであります。変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されていますが、支払金利の変動リスクを回避し支払利息の固定化を図るために、必要に応じてデリバティブ取引(金利スワップ取引)を利用しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、社内ルールに従って行っており、また、デリバティブの利用にあたっては、信用リスクを軽減するために、信用度の高い国内の金融機関とのみ取引を行っています。

また、営業債務、未払金、設備関係支払手形、設備関係電子記録債務及び借入金は、流動性リスクに晒されていますが、当社では、資金担当部門が月次に資金繰計画を作成するなどの方法により管理しています。

- (3) 信用リスクの集中

当事業年度の決算日現在における営業債権(貸借対照表計上額2,878,535千円)のうち87.4%が大顧客5社に対するものであります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2.参照）。

前事業年度（2018年3月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	945,108	945,108	-
(2) 電子記録債権	121,282	121,282	-
(3) 売掛金	3,109,448	3,109,448	-
(4) グループ預け金	2,000,000	2,000,000	-
(5) 投資有価証券	47,538	47,538	-
資産計	6,223,378	6,233,378	-
(1) 支払手形	152,931	152,931	-
(2) 電子記録債務	486,730	486,730	-
(3) 買掛金	2,544,469	2,544,469	-
(4) 未払金	996,849	996,849	-
(5) 設備関係支払手形	12,137	12,137	-
(6) 設備関係電子記録債務	566,017	566,017	-
(7) 長期借入金(*1)	2,700,000	2,700,000	-
負債計	7,459,134	7,459,134	-

(*1) 1年内返済予定の長期借入金を含めております。

当事業年度（2019年3月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	2,035,756	2,035,756	-
(2) 電子記録債権	129,763	129,763	-
(3) 売掛金	2,748,772	2,748,772	-
(4) グループ預け金	6,500,000	6,500,000	-
(5) 投資有価証券	42,457	42,457	-
資産計	11,456,749	11,456,749	-
(1) 支払手形	471	471	-
(2) 電子記録債務	957,079	957,079	-
(3) 買掛金	3,606,593	3,606,593	-
(4) 未払金	2,135,505	2,135,505	-
(5) 設備関係支払手形	1,729	1,729	-
(6) 設備関係電子記録債務	1,842,022	1,842,022	-
(7) 長期借入金(*1)	2,400,000	2,400,000	-
負債計	10,943,401	10,943,401	-

(*1) 1年内返済予定の長期借入金を含めております。

（注）1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

- (1) 現金及び預金、(2) 電子記録債権、(3) 売掛金、(4) グループ預け金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

- (5) 投資有価証券

株式の時価については、取引所の価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

負債

- (1) 支払手形、(2) 電子記録債務、(3) 買掛金、(4) 未払金、(5) 設備関係支払手形、
(6) 設備関係電子記録債務

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

- (7) 長期借入金

長期借入金は変動金利のため市場金利を反映し、また当社の信用状態は借入実行後大きく変化していないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため当該帳簿価額によっております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

前事業年度(2018年3月31日)

非上場株式(貸借対照表計上額32,075千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(5)投資有価証券」には含めておりません。

当事業年度(2019年3月31日)

非上場株式(貸借対照表計上額32,075千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(5)投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権の決算日後の償還予定額

前事業年度(2018年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
預金	944,745	-	-	-
電子記録債権	121,282	-	-	-
売掛金	3,109,448	-	-	-
グループ預け金	2,000,000	-	-	-
合計	6,175,476	-	-	-

当事業年度(2019年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
預金	2,035,068	-	-	-
電子記録債権	129,763	-	-	-
売掛金	2,748,772	-	-	-
グループ預け金	6,500,000	-	-	-
合計	11,413,604	-	-	-

4. 借入金等の決算日後の返済予定額

前事業年度（2018年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	1,200,000
合計	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	1,200,000

当事業年度（2019年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	900,000
合計	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	900,000

（有価証券関係）

1. その他有価証券

前事業年度（2018年3月31日）

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が取得 原価を超えるもの	株式	47,538	19,831	27,707
	小計	47,538	19,831	27,707
合計		47,538	19,831	27,707

（注）非上場株式（貸借対照表計上額32,075千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当事業年度（2019年3月31日）

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が取得 原価を超えるもの	株式	42,457	19,831	22,626
	小計	42,457	19,831	22,626
合計		42,457	19,831	22,626

（注）非上場株式（貸借対照表計上額32,075千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 売却したその他有価証券

前事業年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引
該当事項はありません。
2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引
該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要
当社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型の確定給付制度を採用しております。
確定給付企業年金制度では、給与と勤務期間に基づいた一時金又は年金を支給します。
当社が有する確定給付企業年金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
退職給付引当金(は前払年金費用) の期首残高	8,872千円	3,109千円
退職給付費用 制度への拠出額	42,662 54,644	61,411 56,552
退職給付引当金(は前払年金費用) の期末残高	3,109	1,750

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
積立型制度の退職給付債務 年金資産	669,117千円 672,226	722,334千円 720,584
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	3,109	1,750
退職給付引当金(は前払年金費用)	3,109	1,750
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	3,109	1,750

(3) 退職給付費用

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
簡便法で計算した退職給付費用	42,662千円	61,411千円

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2018年 3月31日)	当事業年度 (2019年 3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	38,686千円	42,641千円
未払法定福利費	6,110	6,768
未払事業税	12,932	13,776
退職給付引当金	-	533
ゴルフ会員権評価損	9,612	9,612
減価償却超過額	35,618	20,494
減損損失	346,831	256,897
資産除去債務	9,494	9,737
税務上の繰越欠損金(注)2	1,564,581	1,823,290
その他	13,943	13,877
繰延税金資産小計	2,037,810	2,197,629
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注)2	-	1,823,290
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	-	253,406
評価性引当額小計(注)1	1,931,555	2,076,696
繰延税金資産合計	106,254	120,933
繰延税金負債		
資産除去債務	756	686
その他有価証券評価差額金	8,439	6,891
繰延税金負債合計	9,196	7,578
繰延税金資産の純額	97,058	113,354

(注) 1 . 評価性引当額が145,141千円増加しております。この増加の主な内容は、当事業年度末に税務上の繰越欠損金849,339千円を計上したためであります。

(注) 2 . 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

当事業年度(2019年 3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)	合計 (千円)
税務上の繰越欠 損金(1)	-	375,686	494,468	209,368	217,243	526,522	1,823,290
評価性引当額	-	375,686	494,468	209,368	217,243	526,522	1,823,290
繰延税金資産	-	-	-	-	-	-	-

(1) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (2018年 3月31日)	当事業年度 (2019年 3月31日)
法定実効税率	30.69%	30.46%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.41	0.63
住民税均等割	1.21	1.43
評価性引当額の増減	38.26	27.47
試験研究費税額控除	1.63	-
その他	0.26	0.38
税効果会計適用後の法人税等の負担率	7.84	1.31

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

資産除去債務に重要性が乏しいため、記載しておりません。

(賃貸等不動産関係)

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、記載しておりません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

当社は二次電池事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

当社は二次電池事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位:千円)

	リチウムイオン 電池向け製品	ニッケル水素 電池向け製品	その他	合計
外部顧客への売上高	18,996,445	1,830,165	586,496	21,413,106

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位:千円)

日本	韓国	中国	アメリカ	ヨーロッパ	合計
8,580,761	9,567,580	3,068,797	-	195,968	21,413,106

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位:千円)

顧客の氏名又は名称	売上高	関連するセグメント名
L&F Co.,LTD	5,801,694	二次電池事業
パナソニック(株)	4,513,735	二次電池事業
三洋電機(株)	2,436,441	二次電池事業

当事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	リチウムイオン 電池向け製品	ニッケル水素 電池向け製品	その他	合計
外部顧客への売上高	29,869,368	1,933,029	829,737	32,632,135

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

（単位：千円）

日本	韓国	中国	アメリカ	ヨーロッパ	合計
15,318,679	10,807,202	6,368,687	11,647	125,918	32,632,135

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の氏名又は名称	売上高	関連するセグメント名
パナソニック(株)	11,291,932	二次電池事業
L&F Co.,LTD	7,747,238	二次電池事業
丸紅(株)	5,535,931	二次電池事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1 関連当事者との取引

(1) 財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等に限る）等

前事業年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

重要性が乏しいため、記載しておりません。

当事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
親会社	住友化学株式会社	東京都中央区	89,699,341	総合化学工業	(被所有)直接50.43	株式の被所有出向者の受入	第三者割当増資	3,566,326	-	-

(注) 2018年11月30日開催の取締役会において決議された第三者割当増資により、一株につき962円で当社株式3,707,200株を引受けたものであります。

(2) 財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

前事業年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
同一の親会社を持つ会社	住化ファイナンス株式会社	東京都中央区	500,000	住友化学(株)関係会社への融資等	-	資金の預入	資金の預入	-	グループ預け金	2,000,000
							資金の払戻	1,000,000		

当事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
同一の親会社を持つ会社	住化ファイナンス株式会社	東京都中央区	500,000	住友化学(株)関係会社への融資等	-	資金の預入	資金の預入	4,500,000	グループ預け金	6,500,000
							資金の払戻	-		

(注) グループ預け金の金利につきましては、市場金利を勘案して合理的に決定しております。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

住友化学株式会社（東京証券取引所に上場）

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
1株当たり純資産額(円)	332.88	450.71
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり 当期純損失金額()(円)	26.90	19.17

- (注) 1.前事業年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 2.当事業年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 3.1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
当期純利益金額又は当期純損失金額() (千円)	681,792	524,901
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益金額又は当期純損 失金額()(千円)	681,792	524,901
普通株式の期中平均株式数(千株)	25,349	27,374

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残高 (千円)
有形固定資産							
建物	3,388,255	1,066,752	41,636	4,413,371	2,441,259	120,661	1,972,112
構築物	357,707	69,013	-	426,721	313,408	11,172	113,312
機械及び装置	14,950,504	2,006,207	216,667	16,740,044	13,855,649	466,913	2,884,394
車両運搬具	77,851	10,370	-	88,221	78,375	1,115	9,845
工具、器具及び備品	376,205	172,334	2,391	546,148	365,269	19,974	180,879
土地	1,125,321	138,205	-	1,263,526	-	-	1,263,526
建設仮勘定	1,276,831	5,546,975	3,530,413	3,293,393	-	-	3,293,393
有形固定資産計	21,552,677	9,009,858	3,791,108	26,771,428	17,053,963	619,837	9,717,464
無形固定資産							
ソフトウェア	23,276	1,085	13,696	10,665	6,525	4,407	4,139
電話加入権	1,947	-	-	1,947	-	-	1,947
その他	1,293	-	-	1,293	658	86	634
無形固定資産計	26,517	1,085	13,696	13,905	7,184	4,494	6,721
長期前払費用	8,315	-	5,618	2,697	-	-	2,697
繰延資産	-	-	-	-	-	-	-
繰延資産計	-	-	-	-	-	-	-

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

建物	原料溶解設備	407,339千円
	品質保証設備	494,045千円
機械及び装置	リチウムイオン電池向け製品生産設備	143,963千円
	ニッケル水素電池向け製品生産設備	372,327千円
	研究開発設備	12,544千円
	原料溶解設備	1,379,956千円
建設仮勘定	リチウムイオン電池向け製品生産設備	2,405,005千円

2. 当期減少額のうち主なものは、次のとおりであります。

機械及び装置	リチウムイオン電池向け製品生産設備	4,768千円
--------	-------------------	---------

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	-	-	-	-
1年以内に返済予定の長期借入金	300,000	300,000	0.526	-
1年以内に返済予定のリース債務	138,853	142,756	3.279	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	2,400,000	2,100,000	0.526	2027年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	142,407	-	3.279	2020年
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	2,981,261	2,542,756	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末時点での利率及び残高を使用して算定した加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の貸借対照表日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	300,000	300,000	300,000	300,000

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	451	-	-	-	451
賞与引当金	127,006	139,993	127,006	-	139,993

【資産除去債務明細表】

当事業年度期首及び当事業年度末における資産除去債務の金額が、当事業年度期首及び当事業年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、財務諸表等規則第125条の2の規定により記載を省略しております。

(2)【主な資産及び負債の内容】

資産の部

1)現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	687
預金	
当座預金	1,297,699
普通預金	734,658
別段預金	2,710
小計	2,035,068
合計	2,035,756

2)電子記録債権

(イ)相手先別内訳

相手先	金額(千円)
三洋電機(株)	129,763
合計	129,763

(ロ)期日別内訳

期日別	金額(千円)
2019年4月	-
5月	-
6月	14,381
7月	115,381
8月	-
合計	129,763

3)売掛金

(イ)相手先別内訳

相手先	金額(千円)
パナソニック(株)	789,311
プライムアースE Vエナジー(株)	496,995
丸紅(株)	496,270
L&F Co.,LTD	381,259
STM Co,Ltd.	222,090
その他	362,845
合計	2,748,772

(ロ) 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (千円)	当期発生高 (千円)	当期回収高 (千円)	当期末残高 (千円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{(A) + (D)}{2} \div \frac{(B)}{365}$
3,109,448	34,442,302	34,802,979	2,748,772	92.7	31.0

(注) 当期発生高には消費税等が含まれております。

4) 商品及び製品

品目	金額(千円)
製品	
リチウムイオン電池向け製品	932,328
ニッケル水素電池向け製品	118,946
合計	1,051,275

5) 仕掛品

品目	金額(千円)
リチウムイオン電池向け製品	1,219,999
ニッケル水素電池向け製品	626,644
合計	1,846,643

6) 原材料及び貯蔵品

区分	金額(千円)
原材料	
ニッケル系主要原料	572,465
コバルト系主要原料	359,460
その他主要原料	73,007
補助原料	33,541
小計	1,038,475
貯蔵品	
包装資材	30,253
その他	9,856
小計	40,109
合計	1,078,584

7) グループ預け金

相手先	金額(千円)
住化ファイナンス(株)	6,500,000
合計	6,500,000

負債の部

1) 電子記録債務

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
日曹商事(株)	459,160
エム・ネットワーク(株)	202,509
江守商事(株)	51,309
太谷(株)	47,997
北作商事(株)	44,110
その他	151,992
合計	957,079

(ロ) 期日別内訳

期日別	金額(千円)
2019年4月	248,422
5月	255,091
6月	250,804
7月	202,761
合計	957,079

2) 買掛金

相手先	金額(千円)
阪和興業(株)	1,948,734
パナソニック(株)	736,173
住友商事(株)	333,603
New Providence Metals Marketing Inc.	258,506
日曹商事(株)	125,314
その他	204,261
合計	3,606,593

3) 未払金

相手先	金額(千円)
(株)ニチゾウテック	1,280,377
前田建設工業(株)	327,891
パナソニック(株)	65,618
北陸電力(株)	52,302
(株)ナカテック	48,176
その他	361,138
合計	2,135,505

4) 設備関係電子記録債務

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
(株)ニチゾウテック	854,411
前田建設工業(株)	665,554
北陸電気工事(株)	179,707
(株)ナカテック	41,469
福井ボイラー工業(株)	21,546
その他	79,332
合計	1,842,022

(ロ) 期日別内訳

期日別	金額(千円)
2019年4月	369,070
5月	77,783
6月	633,774
7月	761,393
合計	1,842,022

(3)【その他】

当事業年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当事業年度
売上高(千円)	7,721,312	16,888,665	25,714,962	32,632,135
税引前四半期純利益金額又は税引前当期純損失金額()(千円)	243,335	235,074	108,902	531,870
四半期純利益金額又は当期純損失金額()(千円)	201,366	185,453	81,014	524,901
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額()(円)	7.94	7.32	3.15	19.17

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()(円)	7.94	0.63	3.96	18.65

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 大阪府大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	無料
公告掲載方法	当社の公告は電子公告により行います。ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じた場合には、日本経済新聞に公告いたします。 なお、電子公告は当社ホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりです。 < http://www.tanaka-chem.co.jp/ >
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、取得請求権付株式の取得を請求する権利並びに募集株式又は募集新株予約権の割当を受ける権利以外の権利を有しておりません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書
事業年度（第62期）（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）2018年6月25日関東財務局長に提出
- (2) 内部統制報告書及びその添付書類
2018年6月25日関東財務局長に提出
- (3) 四半期報告書及び確認書
（第63期第1四半期）（自 2018年4月1日 至 2018年6月30日）2018年8月9日関東財務局長に提出
（第63期第2四半期）（自 2018年7月1日 至 2018年9月30日）2018年11月13日関東財務局長に提出
（第63期第3四半期）（自 2018年10月1日 至 2018年12月31日）2019年2月12日関東財務局長に提出
- (4) 臨時報告書
2018年6月27日関東財務局長に提出
企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。
2019年5月10日関東財務局長に提出
企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の4（監査証明を行う監査公認会計士等の異動）に基づく臨時報告書であります。
- (5) 有価証券届出書（その他の者に対する割当、一般募集及びオーバーアロットメントによる売出し）及びその添付書類
2018年11月30日関東財務局長に提出
有価証券届出書（その他の者に対する割当）及びその添付書類
2018年11月30日関東財務局長に提出
- (6) 有価証券届出書の訂正届出書
2018年12月11日関東財務局長に提出（その他の者に対する割当、一般募集及びオーバーアロットメントによる売出し）
2018年11月30日届出の有価証券届出書に係る訂正届出書であります。
2018年12月11日関東財務局長に提出（その他の者に対する割当）
2018年11月30日届出の有価証券届出書に係る訂正届出書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2019年6月27日

株式会社 田中化学研究所

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 加藤 博久 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高村 藤貴 印

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社田中化学研究所の2018年4月1日から2019年3月31日までの第63期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社田中化学研究所の2019年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社田中化学研究所の2019年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社田中化学研究所が2019年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。